

国際協力イベントでの広報活動

2025年8月1日～3日に横浜市で行われた「AIDS文化フォーラム in 横浜」、9月27日～28日に新宿住友ビル三角広場にて開催された「グローバルフェスタ JAPAN2025」にブース出展しました。ケニアでの衛生環境改善事業や生理環境改善事業のパネルのほか、ケニアの女性達が作った生理用品を展示しながら来場者に活動について広報しました。



アジア太平洋地域の持続可能なまちづくりのためのプラットフォーム

人々が安全で安心して住み続けられるまちづくりの課題が複雑多様化しており、さまざまなステークホルダーとの協働が求められています。日本企業が有する優れた商品やサービスは課題解決に有効であるため、国連ハビタット福岡本部が東京と福岡に官民連携プラットフォームを立ち上げ、各地でネットワークセミナーを開催しています。当協会はパートナー団体として協力しています。

10月17日、スペシャルミーティングが名古屋にて開催され、企業だけでなく、アジアの各都市の市長らが参加しました。当協会職員だけでなくハビタットフレンズ名古屋のメンバーも参加し会場運営に協力しました。



JAPAN HABITAT ASSOCIATION

HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No.48

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

第9回アフリカ開発会議（テーマ別イベント） マリ・クリスティーン

2025年8月20日～22日、日本政府が主導する「第9回アフリカ開発会議（TICAD9）」が横浜で開催されました。会期中、日本ハビタット協会はシンポジウムを開催しました（21日10時～11時30分/パシフィコ横浜展示ホールD）。テーマは「住民が変わり地域も変わった～女性のエンパワメント、水と衛生事業から見た住民参加のまちづくり～」です。

ケニアで女性のエンパワメント事業のプロジェクトマネージャーを務めるビビアン ニャータさんが基調講演を行い、ケニアにおける女性の課題と、それを改善するために実施している事業の成果として女性たちの状況が向上している事などの報告がありました。それに続きプロジェクトアシスタントのエマリン オコンゴさん、(株)LIXILのサミュエル ランゲットさん、JICAの松元秀亮さんを交えてのトークセッションでは、トイレ建設や生理状況改善事業を通して人々の暮らしが向上していること、NGOと企業が協働してコミュニティを強化していくことの重要性、住民主体のまちづくりにおける女性の役割などについて話し合いました。モデレーターは佐藤摩利子理事が担当し、中身の濃い話し合いとなりました。



ビビアンニャータさんの基調講演



国連ハビタット アナクラウディア ロスバツハ事務局長



トークセッション

TICAD9で開催した私たちのシンポジウムでは国連ハビタットのアナクラウディア ロスバツハ事務局長がわざわざ来場され、挨拶をして下さいました。大変光栄なことでした。

ロスバツハ事務局長は今回が初めての来日です。日本での数日間、過密スケジュールの中、様々な会議に参加されていらっしゃいましたが、市民が主催する市民のためのイベントへの参加は当協会のシンポジウムのみです。熱気あふれる満席の会場に入れ感動されていました。国連ハビタットの理念「市民が自分たちの手でまちを良くしていくこと」を実現していることを感じられたようです。予定時間をオーバーしながら、いまだ世界中で34億人がトイレのない生活をしている事、その中で少女や女性が大変な暮らしを強いられている事、ジェンダー平等の大切さを力強く話されました。

会場には高校生をはじめとするあらゆる年代の方々（約8割が女性）が参加下さいました。ご参加のすべての方々に心から御礼申し上げます。



ビビアンさん、エマリンさんと来場した高校生



国連ハビタット アナクラウディア ロスバツハ事務局長



国連ハビタット協会の展示ブース

ハビタットクイズ?!

日本の通常使われているコイン(1円玉～500円玉)のデザインには、いろいろな植物が使われています。次の①～⑤の中で使われていない植物はどれでしょう。



ご協力いただきありがとうございます

2025年6月1日～2025年11月30日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 一柳とく江、富取善彦、野崎美知子、錦織 保、原 雄次郎、橋本久美子、佐藤和恵、水上 芙佐子、中富 貴仁、村野啓子、山本 和、丹羽 浩康、樋渡 子エノ、滝澤 進、上山 佳彦、大橋 俊枝、丹波 佐和子、錫切 順子、新井てつお、紙島 弘子、積田 孝一、久保 啓一郎、笠 由美子、下村 政裕、堤 かなめ

賛助会員 山口 実知子、三浦 教子、(株)新橋スタンプ商会、魚住 昌子、(学)中村産業学園

ご寄附 SI- 日田、樋口 謙一郎、富取善彦、中井 禮子、若林 陽介、橋本久美子、品川 篤子、山口 実知子、丹羽 浩康、大塚 麻貴子、上山 佳彦、川村 郁子、錫切 順子、丹波 佐和子、新井てつお、勝又 宏幸、町 千恵子、笠 由美子、竹本 直一、岡田 耕三、下村 政裕、岡部 見子、内田 俊隆、鎌滝 たみ子、水口 喜美子、伊藤 志朗、(株)新橋スタンプ商会、(株)日本建築住宅センター、三菱UFJ 証券ホールディングス株式会社、(有)アオキ

マンスリーサポーター 大下 悟、今村 稔、岡田 耕三、古庄 弘美、下村 政裕、篠原 昭子、篠原 大作、清水 雄二、藤田 美江子、美甘 政門、三島 康雄、山本 博子、山本 嘉彦、岡部 正、橋本 政和

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSCO、日本コンテナ輸送(株)、(株)日本海洋科学、エムシーファッション(株)、(株)ジェーシービー、ライフコミュニケーション希望が丘、那覇空港事務所、ちよだボランティアセンター、寺田整骨院、あい薬局、今泉 恵、川野 直子、大迫 佐知子、谷水 清、戸塚 憲吾、澤渡 好子、多田 和子、富張 佳子、積田 孝一、田路 あつ子、大西 ふみか、菊池 いづみ、栗田 和子、藤島 洋子、古庄 弘美、荒井 真一、鈴木 麻乃、西山 真知子、田村 純子、藤島 洋子、藤田 信子、笹村 和幸、丸山 三晴

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、国際協力機構(JICA)、(株)LIXIL、アクセントアール(株)、ユニ・チャーム(株)、(株)エイチアールディー、(株)新橋スタンプ商会、(株)東急エージェンシー、(株)EMA、朝日新聞 with Planet、農事組合法人シャン・ドゥ・ミュリエ、(公財)横浜市男女共同参画推進協会、(公財)かながわ国際交流財団、(公財)横浜市国際交流協会、男女共同参画センター横浜南フォーラム南太田、(一財)CSO ネットワーク、(公社)日本フィランソロピー協会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、長崎大学、福山女子大学、東海大付属相模高等学校、札幌市立藻岩高等学校、品川インターナショナルスクール、花巻北高等学校横浜 NGO ネットワーク、国際協力 NGO センター、SATREPS、エイズ孤児支援 NGO・PLAS、ワールド・ビジョン・ジャパン、重蔵神社、アジアの女性と子どもネットワーク、ハビタット福岡市民の会、半蔵門駅前郵便局、麴町郵便局、九段郵便局、海軍ビル内郵便局、みずほ銀行四谷支店、エクステンジャーズ、インターバンク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

コイン仕分けにご協力いただいた企業・学校 (株)ジェーシービー、楽天グループ(株)、オーシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)、NS ユナイテッド海運(株)、(株)電通

募金箱設置にご協力いただいた企業など 成田国際空港(株)、(株)NAA リテイリング、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、長崎空港ビルディング(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会、(有)岩田時計店、AOKI、珈琲店ストーンズ

編集：佐藤のりこ

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作 / 編集責任 山本 博子）

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp

2026年1月発行

ケニアの女性達が羽ばたけるコミュニティをめざして



みなさん、こんにちは。生理環境改善による女性のエンパワメント事業のプロジェクトマネージャーのVivian Nyaataです。いつも私たちの活動を支援して下さいありがとうございます。

自分たちの未来は自分たちで変えてゆく。

ケニアの女性を取り巻くさまざまな問題

月経衛生対処をはじめ、児童婚や若年妊娠、女性性器切除 (FGM)、ジェンダーに基づく暴力 (SGBV)、HIV/AIDS などさまざまな課題がケニアの少女と女性の可能性を阻んでいます。政府による法整備や政策などが打ち出されていますが、十分ではありません。

女性にとって、正しい月経衛生対処は健康を守るだけでなく、教育や社会参画の機会をつくっていくのにとっても重要です。実際、多くの少女が生理期間中は学校を休まなければいけない状況です。学校のトイレや給水設備が十分整っていないのも大きな原因です。また、ケニアでは、生理についてオープンに話すことはタブーとされており、それにより偏見や差別が生まれます。男性の正しい理解を得られることもできません。



プロジェクトに関わる意欲的なメンバー

着実に変わり始める住民

女性が羽ばたけるコミュニティづくりを目指し、「FLY」と「no more limit」を合言葉にかけプロジェクトを開始しましたが、活動を通じて、住民の意識と行動が着実に変わってきています。生理に対する正しい理解が広がり、さらに、自分たちで布ナプキンや下着、石鹸を作れるようになり、適切な月経衛生対処をできるようになりました。学校では男子生徒もトランクスを作れるようになり、また、父親も生理用ナプキンの大切さを理解し購入するためのお金を工面するようになりました。生理に起因する女性の精神的肉体的負担を軽減していくためには、男女が協力していくべきだという考えが広がってきています。



中学校での性教育

女性達の経済的自立

自分たちで生理用品を作れるようになっていますが、経血量が多い日や安心して就寝するために市販のナプキンが必要な時もあります。各村の女性グループを対象に、農業技術トレーニングを行いながらお金の管理方法も指導することで、女性の所得向上にも取り組みました。さらに、自分たちで作った下着や石鹸も販売し、女性グループを中心に貯蓄も行われるようになり、その貯蓄をもとに女性グループが足踏みミシンを買った時はとても嬉しかったです。

女性がしっかりとお金を稼ぎ管理することは、女性の経済的かつ精神的自立を促すもので、それは継続的な月経衛生対処ができるようになるだけでなく、児童婚や若年妊娠、ジェンダーに基づく暴力などの解決にもつながります。



農業技術トレーニングによって栽培を行ったバナナ



貯蓄して購入した足踏みミシン

男女の相互理解と
お互いに支え合う
コミュニティ作り
を目指して

対象エリアを拡大

2025年11月からJICA草の根技術協力事業として事業を拡大し、年間30村と8小中学校を対象に活動しています。より広い地域で、男女の相互理解と支え合うコミュニティをつくっていきたいと思います。みなさんの引き続きのご支援ご協力をお願いします。



ラオス コミュニティベースのゴミ分別とリサイクル



世界遺産 古都ルアンパバーン：川辺の夕日

古都ルアンパバーン

ラオス北部の古都ルアンパバーン。山々に囲まれ、メコン川沿いに広がる美しい街並みは世界遺産に登録されていて、毎年100万人近くの旅行者が訪れます。2023年12月にラオス中国高速鉄道が開通されてからは、隣国の中国やタイだけでなく、ラオス国内からの旅行者も増えました。新型コロナウイルス感染症のパンデミック前は、ヨーロッパからの旅行者を多く見かけましたが、現在はナイトマーケットなどではアジア人の姿が多くなってきたと感じます。市内に点在する寺院を訪れたり、メコン川を眺めながら食事をしたり、川下りを楽しんだり、ゆったりと時間を過ごすことができるのが魅力の一つです。

生活基盤が整備されていく中で

人々が安全で安心して暮らしていくためには生活インフラの整備が重要となり、生活に特に必要となる水、電気、ガスは優先的に取り組まれます。そして、インターネットが人々の暮らしを支えるようになった社会においては、通信網の整備も必要不可欠となります。都市が発展していく過程において、これらの暮らしへの「供給」が進む一方で、暮らしから排出されるごみや生活排水などの「処理」は後回しにされがちになります。

ルアンパバーンでも家庭やレストラン、ゲストハウスなどから出る生活排水は処理されることなく、メコン川やその支流に放出されています。ごみについても、分別されることなくゴミ集積場に捨てられ、郊外にあるごみ埋め立て場にはさまざまなごみが混ざった状態で積み上げられ、近い将来処理能力を超えると懸念されています。



付近への環境汚染が懸念されている郊外のゴミ集積場

経済発展の中で
後回しになる
ゴミ問題...



多くの旅行者によって経済が活性化する一方で

時間がかかるからこそ今

日本では家庭でも種別によってごみ箱が用意されていて、回収日に合わせてごみ出しが行われています。それらはごく自然に生活の中に定着していますが、長年の積み重ねによって習慣化されたものだと感じます。ラオスでは、経済発展とともに暮らしが変わり、人々がさまざまな商品を購入、消費するようになり、これからは捨てるということに対する意識を高めていかなければなりません。一方で、人々の意識変革と行動変容を促し、それを定着させるためにはかなりの月日を要します。ですが、町中でのポイ捨てや最終処理場の状況を見ますと、時間がかかったとしても今取り組まなければいけません。



現状のゴミ捨て場

人々の意識改革と
行動変容が大切！
教育にも積極的に
取り組みます。

学校発信によって地域が変わる

日本ハビタット協会は、ルアンパバーン市内およびその近郊の小中学校5校を対象に、学校を中心としたコミュニティベースでゴミ分別とリサイクル活動が行われる基盤づくりを行っています。住民の意識や習慣を変えていくのに時間はかかりますが、コミュニティの中心である学校から情報と技術を発信することで、学校から地域へ、子どもから親へと伝播していき、地域全体の意識を着実に変えていくことができます。また、リサイクルごみ販売による所得向上、生ごみから生産したコンポストの配布などを行うなど、「ごみは分別すれば自分たちの暮らしに恩恵をもたらすのだ」と実感してもらうことで、地域のモチベーションを維持し活動を継続させていきます。



小学校でのゴミ分別授業



小学生もリサイクル活動に参加